



7月になりました。梅雨が終われば、太陽の明るい輝きに夏のはじまりを感じる月です。こどもたちにとっても、7月は夏休みがはじまったり、家族でのイベントを考えたりと、楽しいことを前にしたワクワク気分になる月ですね。

こどものことば、先回りしていませんか

7月は古い言い方で「文月」（ふみづき、ふづき）と呼ばれていました。「文」とは、昔は「書物」や「手紙」という意味でした。その「文」である書物を夜風に当てて干す習わしや、短冊に文字や和歌を書いて上達を願う風習が7月にあったため「文を披（ひら）く月」と呼ばれたことに由来するそうです。

この「文」を操る力は、今では国語力と呼ばれます。国語力には「読み取る力」「聞き取る力」「話す力」「書く力」などがあります。その中でも柳津小学校が、大切だと考えているのは「言葉や文字で伝える表現力」です。「表現力」とは「自分の思いや考えを相手に正確に伝える力」です。「言葉や文字による表現力」を育てるためには、授業だけでなく日常生活での日々の経験も大切です。たとえば、ある子が宿題を忘れてきたときの場面です。

先生	「宿題が出てないけど、忘れたの？」
児童	「うん」 うなずく
先生	「やったけど家に忘れた、ということじゃなくて、してないの？」
児童	「うん」 うなずく
先生	「体調が悪かったとか、何かできなかった理由があるの？」
児童	「ううん」 首をふる
先生	「じゃあ 今日のリフレッシュ時間にやりますか」
児童	「うん」 うなずく
先生	「ちゃんとやってこないね」
児童	「うん」 うなずく

また、家庭で兄弟げんかがあったときに、親から子に「どっちが先に手を出したの?」「何回も続くから腹が立ったんだね」「それでいやな気持ちになったんだね」「反省してるんだよね」などと、親や先生がこどもの言うべき言葉を先回りして口にして、結局こどもは何も説明していない、言っても単語だけという場面がないでしょうか。

時間がかかっても、こどもたちに考える時間を与え、きちんと聞く人にわかるように説明する場を繰り返し学校でも経験させていきます。そうすることで「自分の思いや考えを相手に正確に伝える力」＝「表現力」を育てていきます。ご家庭でもこどもたちの表現力を鍛えるため、こどもたちに説明する場をつくってくださるようお願いします。

アジサイの花が並びました

柳津生活学校の皆様のご協力で、玄関にたくさんのアジサイの花が並びました。ご覧いただけましたでしょうか。生活学校の皆様が1年間、各家庭でお世話をされたアジサイの花が、美しく咲いた一番いい時期に、こどもたちのためにと学校へ持ち寄っていただきました。こどもたちは一鉢ずつ花の色や形を比べて、お気に入りの花を探して絵に描いたり、写真を撮ったり、花の香りをかいだりして季節を感じ、心を豊かにすることができました。また、学校を訪れた地域の方、他校の先生方、業者の方など多くのお客様方から「校舎に入った瞬間うわ～と思いました」「こんな学校ほかにはありませんよ」「柳津小は地域から大切にされているんですね」などと、うれしいお言葉をいただきました。本当にありがとうございました。



命を守る練習（避難訓練）をしました

6月17日（水）に、福山西警察署の協力で不審者侵入を想定した避難訓練を実施しました。校舎1階から侵入した不審者が、教職員の制止を振り切り、4階まで上がり、教室に入ろうとする。という想定で行いました。不審者侵入を知らせる放送を受けて児童は教室内で鍵をかけて、机でバリケードをつくり、照明を消して静かに待機する訓練を行いました。4階の廊下から見ると、本当に無人の教室のようでした。不審者が確保されてから体育館へ集合し、警察の方から、不審者に遭遇した時の対応方法「いかのおすし」などを教えていただきました。静かに整然とした避難の様子をほめていただきました。



ウミベノマナビがんばっています

本校では、毎週水曜日の放課後、希望者が30分程度クラスごとに学習する「ウミベノマナビ」を行っています。

「もうちょっと算数ががんばりたい」「あとちょっとだから作品を完成させたい」といったこどもたちが、取り組んでいます。少人数による学習で先生にも質問しやすく、短時間ですが、集中して取り組んでいます。大切なのは、やらされる勉強ではなく、自分でやろうと決めた勉強時間だということです。意欲的に学習に向かう姿勢は、普段の授業で学ぶ姿勢にもつながっているはずです。

